

平成28年度第2回福島県総合教育会議 議事録（概要）

1 日時	平成28年11月1日（火） 午前9時30分～午前10時40分
2 場所	福島県庁 本庁舎2階 第一特別委員会室
3 出席者	<p>知 事 内堀 雅雄          教育長 鈴木 淳一          教育委員 浅川 なおみ 岩本 光正 高橋 金一 蜂須賀 禮子          &lt;五十音順に掲載&gt;</p> <p>その他（意見聴取者）          こども未来局長 須藤 浩光</p>
4 議事内容及び経過	<p>(1) 開会 事務局（政策調査課長）</p>
(2) 議題1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p align="center">&lt;頑張る学校応援プラン（仮称）について &gt;</p> </div> <p><b>【知事】</b>          議題1は、県総合教育計画等の最終年度である平成32年度を見据えた、教育政策の骨太の方向性や重要施策を定めるものとして、教育委員会がとりまとめたプランのたたき台について、意見交換を行っていききたいと思う。          議題の論点が「現状の分析」と「今後の方向性」の2つに分かれることから、説明を2回に分け、その都度、意見交換を行いたい。</p> <p>－教育長より資料1・2に基づき説明を行った後、以下のとおり、意見交換を行った。－</p> <p><b>【教育委員】</b>          これまでの会議でも述べてきたことだが、やはり教員への教育が重要だと考えている。          教育先進県に行って、よりよい教え方を学び、それらを踏まえた県内共通の教え方をすることで、子どもたちの成績が伸びていくと思う。          また、県内の学校を卒業して県外の人に就職した子どもがいじめを受け、1年もしないうちに辞めたという話を聞いた。震災を経験し、精神的に強くなっている部分もあるが、社会に出た時に必要な強さなどを教えていくことも大切である。</p> <p><b>【教育委員】</b>          私も、教育先進県における研修が必要だと考えている。</p>

資料の「教員間の学び合いの状況」にもあるとおり、本県においては、学び合いがあまり行われていないのが現状である。中堅や若手の教員が先進県で学んだことを持ち帰り、それを教員間で学び合い、教員の力を高めていくことは非常に重要である。

子どもの得意・不得意を表す指標において、国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や算数の「量と測定」の数値が高くなっている。これは福島の子どもたちの真面目さや郷土を愛するという特徴が出ているものであり、こうした良さは是非伸ばして行ってほしい。

また、採用試験においても従来の方法にとらわれない工夫が必要であると感じている。

#### 【教育委員】

学校、家庭、地域それぞれの教育が重要であると考えているが、昔に比べ、学校に任される割合が高くなっていると感じている。その辺のバランスをうまく取っていくことも大切だと思う。

また、折角、一流の大学を卒業しても働くための受け皿が少なく、就職出来ないようなこともあるようだ。教育や雇用形態など、福島だけではなく、日本全体の大きな視点での検討も必要。

子どもの貧困問題について、先日のテレビでNPOの人たちが子どもたちにお菓子を配っている様子が放映されていた。それ自体は素晴らしいことだが、その時だけの支援ではなく、子どもが育っていく上で将来も見据えた支援の形というものを考えていく必要があると感じている。

#### 【教育委員】

学習時間の長さだけではなく、質も大事だと思う。実際、福島県では学習時間は全国平均より長いですが、学力は平均以下の教科が多い。質を高めていくためには、学校と家庭の連携が重要だと考えるが、モラル教育など、本来家庭でも教えるべきものを学校に任せてしまっている部分も多いように感じる。幼稚園のお遊戯会では、自分の子どもが出ていない時にはスマートフォンを見るのに夢中になってしまい参加しないなど、親のモラルの低下も心配している。

学校と家庭、親と子ども、それぞれの質の向上を図っていく必要がある。

#### 【知事】

委員から教員の研修の話があったが、先日、磐梯町長が私のところに来られて、PISA（学習到達度調査）で非常に優れているフィンランドの最先端の教育の在り方を是非、先生方に学ばせたいということで、町として教員を研修に出すというお話を頂いた。

小学校や中学校の教員なので、ずっと磐梯町にいるわけではないが、彼ら自身の能力のレベルアップと、それらを周りの方々に啓蒙してほしいという思いで、あえて町として研修に出すというもの。しかも今回だけではなく、来年も再来年も続けたいと言っておられた。

町が研修の機会を与えてでも教員に学びを気付かせて、それを子どもたちにフィ

ードバックさせたいという町長の意欲、教育に一生懸命取り組むという思いがこもっているのを実感した。

また、先ほどの教育長の説明の中で「自己肯定、自分自身をどう認めるか」というところがあったが、福島県の子どもが自分自身をきちっと認める、自己肯定力が高まってきているというのは、今後、社会に出て行く上においても重要な部分であり、今後も、そのような意識を持てるような教育を進めていきたいと思う。

続いて次の論点について、教育長から説明願う。

－教育長より資料1・2に基づき説明を行った後、以下のとおり、意見交換を行った。－

#### 【教育委員】

学校と地域との連携というのは、非常に難しいと感じている。

以前、学校の運動会は地域の運動会のようなところがあって、住民が広く参加していたものだが、今は、子どもがいる家族だけが参加するような場合も多く、学校と地域の関係が変わってきている感じがする。

そういう中で、スポーツなどをする場として、学校の校庭が一定程度開放されてはいるが、団体での使用に限られている場合があるなど、親子でのキャッチボールなどで気軽に使用できるかという疑問がある。防犯上の観点から難しいところもあると思うが、地域の人たちが利用しやすい環境をつくっていくことも、学校と地域の連携強化につながると考える。

また、先ほどの話と重複してくるが、学校のチーム力の最大化のためには、仕事以外のプライベートも含めた、教員間の交流が大切だと思う。

私自身、仕事の上でも、若手の育成が重要だと考えており、どうやってコミュニケーションを取っていくかというのが課題であると思っている。

学校におけるチーム力を強化するため、若手の先生が自信を持って授業に取り組めるよう、また、親との関係においても自信をもって対応できるような教員の育成というものを進めていただきたい。

#### 【教育委員】

県には、現在休校している学校の再開に力を尽くしていただきたい。富岡高等学校や浪江高等学校の再開は、町の復興のシンボルとなるものなので、早期の再開が求められると思う。

#### 【教育委員】

学校と地域の連携については、なかなか難しい部分があり、今後どのように取り組んでいくかが重要だと考えている。

授業スタンダードについては、教員の教える基準を上げていくことができれば、学力の底上げになると思う。また、「1学期にはここまで」というような具体的な目標を学校全体で持っていれば、更に成績の向上につながると思うので、是非進めていただきたい。

### 【教育委員】

震災前になるが、県南の小・中学校を回って、音楽祭への参加を呼び掛けたことがある。その中で「地域の運動大会は優勝、準優勝など、学校毎の成績がきちんと形として表れるが、音楽祭に参加しても何も無い」ということを言われたことがある。

学力向上への取組も重要だが、絵を描く習慣を身に付けることや、みんなで歌を歌うことなど、点数や形に表れないことへの大切さを学ぶことも必要であると考え

る。また、以前の会議でも話したことだが、先生方は出来ない子どもに対して、手厚く教える一方で、出来る子どもは、足踏みしていなければならないという状況もある。出来る子どもたちをどのようにして更に伸ばしていくかも重要であり、これらにしっかり取り組むことができれば、県の教育水準を上げることにつながると思う。

子どもの中には、運動が好きな子、勉強が好きな子、趣味への関心が強い子など、興味や得意分野がそれぞれ異なるが、どうしても勉強ばかりをやらせてしまう傾向がある。学力だけではなく、子どもたちの個性を伸ばすような教育も必要だと考える。

### 【知事】

質問が二点ある。授業スタンダードを作っていく取組については、非常に関心があるが、小学校、中学校、高校、段階毎に作るのか、科目毎に作るのかなど、具体的なイメージを示してほしい。

もう一つは、重要施策4の「創造的復興教育」というのは、福島ならではの大事な教育になると思う。先週、福島市の福島第二中学校と岳陽中学校の女子4人が私のところに表敬に来た。その子たちは、イノベーション部という部活で、両校が合同で観光プランを作って、それに基づいて実際にツアーを設定し、お客さんたちの案内まで中学生がやる。立案から案内まで全部中学生がやるという特別な取組をした子たちだった。知事室に入ってきて最初の第一声から、本当にハキハキとしており、プレゼンテーションも上手にやっていた。お客さんたちを案内した自信が彼女たちを成長させていたし、一方で、こういうことが出来なかった、次の時はこうしたいという、反省とそれを踏まえての次の展望も考えていた。おそらく、こういうことは他の県では出来ない特別な教育であり、このような復興教育というものが子どもたちを立派に成長させる福島県の教育の姿、学びの姿になるということが実感できた。是非、この「創造的復興教育」というものを、様々な形で進めてほしい。

### 【教育長】

授業スタンダードについては、年度内を目標に策定中である。

### 【義務教育課長】

授業スタンダードは、義務教育段階で作ろうと思っている。小、中学校の教員が手元に置いて、常に自分の授業と比較しながら活用できるようなものにしたい。例えば、授業の始めには、子どもたちが意欲的に取り組めるような教育課題を設定す

るだとか、授業の終わりには、授業の中で自分ができたこと、もっと知りたいことをしっかりと振り返ることができるような、教員の基礎・基本となる内容にしたい。

また、先ほどまで議論に出ているアクティブラーニングの手法を取り入れながら、学年毎、教科毎ではなく、統一的な内容を各教員が共有できる形で作成していきたいと思う。その際には、県教育委員会だけでなく、市町村教育委員会、校長会等と共に、現状分析や課題の共有化を図り、連携して作成し、活用していきたいと考えている。

**【知事】**

科目毎で具体的な中身が書いてあるものではなく、一般的な考え方とか取り組み方の方向性を示すということか。ボリュームはどの程度か。

**【義務教育課長】**

8枚折のパンフレットのようなものを考えている。

**【知事】**

こういった会議の場で具体的なイメージを見ていただきながら、議論を深めていくのもよいと思う。

(3) 議題2

< 平成29年度に向けた連携について >

**【知事】**

次に議題2、平成29年度に向けた知事部局と教育委員会との連携について。

6月に開催した本年度第1回目の会議において、スマートフォンなどのITツールと子どもたちがどう付き合えばいいのかということを議論した。IT社会の中で、子どもたちがITツールに触れる時間の割合が増えてきており、勉強、読書など、自分の時間を持てなくなっているという懸念がある。

また、コミュニティサイトを利用した犯罪や友人間のトラブルに巻き込まれる事件も増えている。前回の会議では、こうした子どもたちとITツールとの望ましい在り方を考えていく必要があるということで、教育委員会と知事部局、県警本部が連携を密にして、対策を検討しようということにした。その検討作業を経て、来年度に向けて、連携して取り組みたいと考えているが、本日は、それらの方向性について、説明をさせていただき、意見交換を行っていきたい。

ー子ども未来局長から資料3について説明ー

**【教育委員】**

こういった事案は、時代が変わる時は必ず問題となり、今がちょうどその時期なのだと考えている。平成27年度における小学6年生のスマートフォン等の所持率が51パーセントとなっているが、正直そんなに多く持っているという感じはしていなかった。県内でも都市部の子どもたちの所持率が高いのかなと思う。

また、このITツールに関して思うのは、いずれ時代の流れに淘汰されていくのではないかと、若干甘い考えかもしれないが、楽観視している。

### 【教育委員】

IT ツールの問題に関しては、なかなか解決策が見つからないというのが現状だと思う。

子どもたちがスマートフォン等に依存をして、長時間使用していると、前頭葉が収縮し、子どもの言動や行動が衝動的になる等の悪影響があるという話を聞いたことがある。これには、家庭と学校との連携が大事になってくると思う。

インターネットを利用するに当たり、有害サイト等については、ある程度親も勉強する必要がある。フィルタリング機能を強化する方法など、定期的に情報提供できるような場があれば、そういったものの規制につながるのではないかと思う。

また、インターネットなどの文字情報ばかり見ていると、想像力がなくなってくるようにも思うので、同じ活字に触れるのであれば、読書を学校として推進する方がよいのではないかと思う。

### 【教育委員】

子どもに対して、やってはいけないこと、やってよいことを、親がしっかりと教育し、子どもが自ら自覚することが大事だと思う。

ただ、子供たちの興味を引くようなゲームが次々に出てくるなどは、いかなものかと思うことがある。

### 【教育委員】

IT ツールは便利で、図書館をポケットに入れて持って歩くようなものであり、非常に利用価値は高いと思う。それを止めろと言うことはできない。

ただ、長時間使用することについて言えば、親自身が長時間使用してしまっている現状があるのではないかと思う。子どもに制限する前に親自身がどのように付き合い合えばいいのかということをしっかり自覚して、その上で、子どもに説明しないと、子どもは付いていけないと思う。

こういう IT ツールのような機械は、大人より子どもの方がマスターは早いし、使いこなす方法も詳しいと思う。だからこそ、親としてやらなければならないことをきちんと示した上で、子どもから尊敬される使い方をしなければいけないと考える。

また、子どもの頃からバーチャルとリアルの関係が逆転してしまうと社会に出た時にコミュニケーションがうまく取れない大人になってしまうという懸念があるので、IT ツールに関する教育はしっかりと行っていくべきだと思う。

親としての自覚を促す取組、学校における使い方やルール作り、そして、魅力あるリアルな体験をさせるような教育などを進めてほしい。

### 【知事】

今の時代、IT ツールは、なくてはならないものである。非常に便利な部分、光の部分がたくさんある。これが活用できないと、いずれ社会に出た時に仕事の面で困ることがあると考えられるので、どのように活かしていくのかということが大事である。一方で、使い方を誤ったり、あるいは時間の配分というものを間違えると、

折角の大事な育ちを壊してしまうことにもなりかねないので、この影の部分をしつかりと認識して、その影を薄くしながら光を強くしていく、IT との付き合い方をどのようにしていくのかということ smallest 段階から常に考えてもらうということが重要だと思う。

その場合、先ほど委員が仰っていたが、家庭の中で、お父さん、お母さん、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんも含めて、IT との関わり方を自分の周りの大人がどのように持っているかということ子どもは見ているので、まずは我々、大人自身がその模範となるような付き合い方をして、その上で説得力のある言葉を掛けるということがやはり重要だと思う。

学校における IT リテラシーの教育や青少年健全育成の取組はもちろん重要であるし、IT ツールとの上手な付き合い方を確立していくことについては、全体でその雰囲気醸成していかないと、この問題はなかなか簡単には解決できないと思うので、引き続き、このような議論を続けていくことが大切だと思う。

#### (4) 閉 会

##### 【知事】

知事部局、教育委員会共に本日の協議内容を尊重しながら、引き続き、子どもたちのための教育の在り方を考えていきたいと思う。

以上で本年度第2回目の総合教育会議を閉じる。

— 午前10時40分閉会となった。 —